

# 福 山 地 区

国労岡山地本第  
三支部福山地区  
分会機 関 紙  
発行者仁科達也  
編集者佐藤生  
2022年8月9日  
NO.10

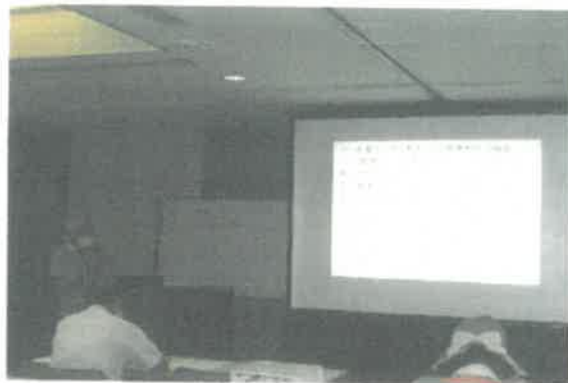
## ウクライナ危機に乗じた軍拡は許されない

8月5日、広島市内で、ヒロシマ平和へのつどい2022実行委員会による集会が行われ、第二部の記念講演がピースデポの湯浅一郎氏からあり、①ウクライナでは多くの市民や兵士の命が失われており、一刻も早く停戦とロシア軍を撤退させなければならぬ。ウクライナ危機を機に世界中で軍拡に拍車がかかっている。軍事力による安全保障をそれぞれの国が確保しようと必死になればなるほどジレンマに落ち入り戦争を引き寄せてきている。②軍事力による安全

保障ジレンマとは、軍事力による安全保障の思考に基づき、相互に軍事力態勢の強化を進めれば、結果として際限のない軍拡競争を繰り返す悪循環にはまり込むことをいう。③「共通の安全保障」とは、1982年、パルメ委員会（軍縮と安全保障に関する独立委員会）が国連事務総長に提出した「共通の安全保障―核軍縮への道標」という報告書で提起されている。その内容は、1、「すべての国は安全への正当な権利を有する」という認識を共有すること。2、軍

事力は、国家間の紛争を解決する正当な道具ではないことを相互に認める。3、国の政策を表明する時は自制が肝要で、安全保障は軍事的優位によっては達成されない。という点である。④ソ連のゴルバチョフ書記長がこの概念を採り入れて、80年代後半のわずか5年で米ソ冷戦を終わらせた。軍事力による安全保障ジレンマを解くために「共通の安全保障」はこれからも価値ある概念であることを再確認すべき。⑤ロシアのウクライナ侵略という事態は、冷戦終結以来の30年、1945年、第二次世界大戦、さらに1918年の第一次世界大戦以来の100年強の経験から人類が作ってきた国際人道法、

人権法、ジュネーブ議定書、国連憲章といった合意を包括的に知っていく機会にすべきだ。⑥人類には生物多様性の低下や気候危機への対処という喫緊の課題が突き付けられている。これは、18世紀後半からの産業革命に伴い、過剰な開発行為によって、多様な生物の生きる場をうばってきた、今、（裏へ）



同族同士が殺し合いをしている  
場合ではない。市民がこれらを  
認識し、世論を広げていかなけ  
ればならないとの講演がありま  
した。